

講演

日時／平成26年11月24日（月・祝）14:00～15:30
会場／ウェスティンナゴヤキャッスル2F「青雲の間」

一般社団法人名古屋西法人会
地域社会貢献活動講演会

元衆議院議員
第17代 宮崎県知事

東国原 英夫 氏



『東国原流 逆転の発想』

～どげんかせんといかん！ この日本！～』

ナポレオンに憧れた 少年時代

「私はいまフリーターであります。名古屋は何度も訪れております。特に名東区に縁がございました」と話し始めたが、元夫人の女優かとうかず子さんの話題には触れず、講演は演壇の設えから始まった。盛り花がなく水差しもない。あるのはペットボトルとコップだけ。「名古屋の西区には、アベノミクスの恩恵が行き渡っていないのでしょうか（笑い）」。

講師は小さい頃からの夢を語る。小学校1年生の彼は風貌も国籍もフランス人になりたかった。

ナポレオンが大好きで、「我が辞書に不可能の文字はない」

がカッコいいと憧れた。

先生に「大きくなったらフランス人になりたい」と言ったら、しばらく考えて「頑張ればなれます」と答えてくれた。その言葉が“頑張れば夢は達成できる”と胸に刺さったと回顧した。

続いて6年生の卒業文集に「政治家とお笑い芸人になりたい」と書く。先生は驚き「両方になりたいのか？」と正す。一見真逆とも思えるが「両方とも人々を幸せにする仕事です」と答えた。読書家で聡明な少年時代を偲ばせる。

もうひとつ講師を支えてきた言葉は、幕末の改革派の上杉鷹山の「なせば成る、為さねば成らぬ何事も」。鷹山は講師と同じ宮崎の出身で、諸藩台所事情の逼迫の江戸時代、山形の米

沢藩を財政再建させ、同時に医療・福祉・教育制度を確立した人物だ。

座右の銘 「ピンチはチャンス」

大学卒業後、小さい頃からの夢を実現するためにお笑い界を目指す。昭和55年（1980）日本列島は空前のお笑いブームであった。大学3年生でツービートの漫才に衝撃を受ける。芸能界にコネクションはなく自分で道を切り拓くしかなかった。大道具の搬入口のエレベーターに大きな荷物を3人で運ぼうとしていた。空いていた一角を持って難無くツービートの楽屋にたどり着く。緊張してドアを叩いたら目の前に師匠がいる。緊張でワナワナ震えている見知らぬ人間が立っていたので、たけし師匠は自分を刺しに来たと警戒したらしい。自分の真意を伝えなければと「尊敬しています。弟子入りさせてください」と訴えた。



地域社会貢献活動講演会
東国原英夫氏講演会
一般社団法人名古屋西法人会



「弟子志望か。あんちゃん、運転できるかい?」と聞かれ、まったくのペーパードライバーであったが、「はい。できます!」と即答する。

初めて運転する車がポルシェである。左ハンドル。キーを入れるとF1みたいなエンジン音がしてノックしてエンスト。

「この男は、ポルシェを運転したことがないな。でも、こいつに運転させたら何か面白いことが起きるかも知れない」という発想の持ち主の師匠であった。

講師が今でも師匠を尊敬している最大の理由はこの“遊ぶ心”と好奇心の塊だと言う。

慣れない左ハンドルで、車体の右半分がセンターラインをオーバーして対向車にぶつかりそうになる。「アアア、馬鹿野郎、東、元に戻せ〜」。師匠が頭を左に傾げると左に曲がれと思ひ、次の交差点を左折する。また左折して15分かかって結局出発点に戻ってしまった。「馬鹿野郎、これはオレの癖なんだ。お前、面白いな」と採用された。

世間の常識と 逆転の発想

講演会場は、当時のたけし軍団の武勇伝の数々に笑いの渦に包まれた。

海水パンツを履いて熱湯に入ったり、ワニと向かい合って“あっち向いてホイ”をしたこともある。60度の熱湯に入ったときは、決死の覚悟であった。温度を計っていたのが香港映画スターのジャッキー・チェン。温度計を見て「クレイジー、インポシブル(不可能)!!」。軍団にパスはない。時間を稼いでゆっくりやっていたら、「なにやってんだ」と師匠に背中をポンと押され頭からドボン。アチイ!と2mほど飛び上がったそうだ。

最大の挫折は1986年。フライデー事件。たけし軍団の講談社殴り込みである。

夜の11時頃、「うちの姉ちゃんがフライデーされた。カメラが当たって顔にケガをした。許せない。これから殴り込みに行く」と師匠が怒っている。講談社のエレベーターを降りたとた

ん待ち構えていたカメラに撮られ、全員現行犯逮捕。1泊2日後に釈放され自宅謹慎となる。

12月、1月以降のスケジュールは全部キャンセルで裁判が始まったが、ここでも東国原流逆転の発想が発揮される。

講師はあたためていた小説を書き始める。題材は芸能界を舞台にしたミステリーでビートたけしが忽然といなくなり、講師がイケメン探偵になるストーリーだ。

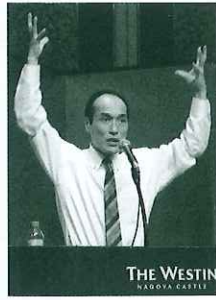
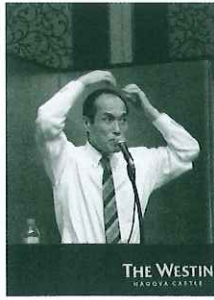
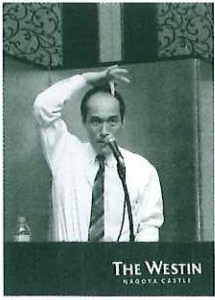
この『ビートたけし殺人事件』は30万部のベストセラーになり、TBSテレビのドラマへとつながり、脚本・演出すべて自演、共演は女優のかとうかず子さん。

「運命の出逢いでした」と当時の幸せな時間を懐かしむ。

公務員との駆け引き

40歳で不祥事を起こして挫折する。「人生を見直し、地域貢献、社会貢献をしよう」と小さい頃からの夢“政治家”への道を決心する。





一念発起、早稲田大学で文学部4年間、大学院で政治経済学部政治学科地方自治法を専攻する矢先に、宮崎県知事が談合事件で失脚する。チャンス到来である。

時に東国原氏が「ルビコン川を渡る」分岐点となる2006年を迎える。「いま決断しないと地域の元気がなくなり、日本も元気にならない。地方自治を勉強した最大の命題は『東京一極集中是正』『地方に人・モノ・金の流れを分散する』』と決断して、早稲田大学を退学。宮崎県知事に立候補。芸能界を辞めると師匠に告げる。

初登庁の日、新知事は県政運営のビジョンを1時間講話をしなければならぬ。開口一番、部長・局長・次長に向かって「この県に裏金はありませんか。あれば自分たちの自浄能力で出してください。私はあなたたちを信頼しています。自発的に出すまで待ちます」と訴えたら、1

カ月後に出先機関の450万円の書き換え預けが出てきた。最終的に3億7千万円出てきて、その責任をとるため知事の報酬を半額にした。

続いて、県産品のPR用に講師のイラストやシールを作ることを提案。ロイヤリティー・印税は不要、自由に使えるようにした。中にはスリッパから風俗営業の入口が講師の顔というケースもあったそうだが、県内の産産品が知事の顔、顔、顔となって、全国的な話題を呼ぶ。

ところが、2010年畜産地帯に口蹄疫に見舞われ30万頭の牛豚を棄殺するという大事態になり、責任をとる形で1期4年で知事の任期を終える。

退任と同時に、講師は「国を変えなければ」という気持ちが芽生え、東京一極集中を是正しようと2011年に都知事選に出馬したが、石原慎太郎の再出馬宣言であえなく落選してしまった。実に波瀾万丈の人生だ。

頑張ればなれます。
なせば成る、
不可能の文字はない

景気経済の行方は、講師も分からないそうだ。消費税増税、集団的自衛権、原発再稼働、TPPなど課題は山積である。道は険しいと分析した。

一方、第二次安倍内閣は、地方活性化対策の司令塔となる「ひと・まち・しごと創生本部」を立ち上げたが、これからは地方がアイデアを出し、連携すると同時に競争する時代になると講師は期待を寄せた。

最後に、「小さいときからの夢だった“人々を幸せにする”“頑張ればなれます”“なせば成る”“不可能の文字はない”を胸に、今後も地方の活性化に向け、尽力していきたい」と講演を結んだ。

※この記事は平成26年11月24日(月・祝)の講演を要約したものです。

文責 (一社)名古屋西法人会

